

≪講演7≫

講演+シンポジウム
「ワーキングメモリを学習に活かす」

【日時】2020年7月11日(土) 13:00~16:15 (180分) 【会場】大会議室

【講師】 室橋 春光 (札幌学院大学心理学部)

【話題提供者】 桂野 文良 (小樽市立潮見台小学校)

池田 千紗 (北海道教育大学)

山田 明夏 (北海道教育大学附属札幌中学校 特別支援学級)

田近 健太 (札幌市立平岸中学校のぞみ分校)

【講演要旨】

ワーキングメモリーは、複数の情報を一時的に保持しておきながら、課題に沿ってそれらに関連する作業を行う場である。ワーキングメモリーは学習の初期に活躍する機能で、その課題に関連する要素が「ユニット」としてまとまっていると、ワーキングメモリーの負担が減ることになる。あるいは「自動化」と言い換えることもできる。何がどのくらい「ユニット化」され「自動化」されているかについては、個人差がとても大きい。ワーキングメモリーを一人ひとり有効に活用するには、習得すべき「材料」の”下ごしらえ”を、子どもの処理特性に合わせて行うことが重要である。料理のしかたは作る人の個性に応じて限りなくあるかもしれないが、だいじなことは一人ひとりの子どもに合った「料理」の工夫をすることである。



《講演8》

事例検討(ワークショップ)

「学習困難のある児童の合理的配慮の検討～アセスメントから指導へ～」

【日時】2020年7月11日(土) 13:00～16:15(180分) 【会場】520 研修室

【講師】山下 公司(札幌市立南月寒小学校)

梅田 真理(学校法人 宮城学院女子大学)

米内山 康嵩(千歳市立北進中学校)

高垣 光子(釧路市立共栄小学校)

【講演要旨】

このワークショップでは、学習困難のある児童の実態把握を行い、それを基に個別の指導計画の作成と活用、中学校に向けての引き継ぎ事項などを検討していきます。対象となる児童は、小学校6年生で通常の学級に在籍しています。学習全般に意欲が低下していて、学習面での困難さは明らかですが、学習意欲の低下を引き起こしている根本となる困難さの特定やその背景は見えづらくなっています。通級指導を開始するにあたり、WISC-IVやKABC-2を実施し、作業療法士による運動アセスメントも行いました。

現在6年生なので、アセスメントから個別の指導計画を作成し、通級指導教室での指導や通常の学級での配慮指導を検討します。また、中学校でどのような支援が考えられるか、自己理解を促しながら行う合理的配慮についてもみなさんと検討していきたいと思います。



◆◆◆◆◆ 2020年7月11日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

≪講演9≫

「RTI モデルによる音読支援～T 式ひらがな音読支援～」

【日時】2020年7月11日(土) 13:00～14:30 (90分) 【会場】820 研修室
【講師】関 あゆみ(北海道大学大学院 教育学研究院)

【講演要旨】

RTI (response to instruction) モデルは、大部分の子どもに有効と思われる指導を行いながら伸びを評価し、指導への反応に合わせて援助介入の手厚さや特殊性を増していく指導方略である。RTI モデルによる支援は診断を前提としないため、遅れが大きくなる前に支援を開始できること、周辺群に対しても支援が行えることが利点である。この指導方略に、解読指導と語彙指導という2段階の指導を組み込んだものが「T 式ひらがな音読支援」である。この支援では小学1～2年生を対象とし学年全体で取り組む。後に学習障害と診断される子どものみならず、さまざまな理由でひらがなの読みの習得につまずく子どもが支援の対象となる。本講演ではこの支援の具体的な進め方や留意点、取り組んだ学校・自治体での成果を紹介する。



◆◆◆◆◆ 2020年7月11日(土) 午後の部 ◆◆◆◆◆

≪講演10≫

「LDのある子への英単語読み書き指導」

【日時】2020年7月11日(土) 14:45～16:15 (90分) 【会場】820 研修室
【講師】村上 加代子(甲南女子大学人間科学部総合こども学科)

【講演要旨】

英語圏ではディスレクシアが10%以上もの割合で出現することが知られています。これは、「英語だから」、そしてその躓きは主に単語の読み書きに現れ、背景要因として音韻の処理障害が指摘されてきました。日本人が英語を学ぶ際にはこれらの情報は無視できません。外国語として英語を学ぶ際には母語の干渉が生じるため、LDがあってもなくても音韻の処理に弱さが生じる可能性が高く、それが原因となって英単語の読み書き習得が妨げられている状態にある中・高生が多くいることが推察されます。10年以上日本のLD児童生徒への英語指導に携わってきたなかで、いくつか現状の英語教育の課題が明らかになってきました。最も大きいのは指導方法だと考えています。講演では現在行われている指導法の問題点、そして日本のLD児童生徒への効果的な英語指導(主に単語の読み書き)について例を示しながら説明致します。

